

## 平成 30 年度 荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

- 【日 時】 平成 30 年 8 月 20 日（月） 14:00～16:00
- 【場 所】 荒尾市役所 11 号会議室
- 【出席委員】 別紙のとおり
- 【事務局】 石川総務部長、松村市民環境部長、塚本保健福祉部長、  
宮崎建設経済部長、前田教育次長兼教育振興課長、  
田中産業振興課長、米田農林水産課長、橋本子育て支  
援課長、片山健康生活課長、浦浜くらしいきいき課長、  
末永都市計画課長、宮脇生涯学習課長、岩本高齢者支  
援課長、田代福祉課長、  
田川政策企画課長、林田政策経営室長、平山

記録者：政策企画課 平山

## 1. 開会

田川課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

## 2. 新委員紹介

田川課長が、人事異動や役員改選等で新たに委員に就任された方を紹介した。また、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

## 3. 会長あいさつ

- ・荒尾市においては、荒尾市民病院の建設地決定や南新地土地区画整理事業の推進など、新しいまちづくりに向けて大きく動き出しているところである。
- ・これらの事業を核に、点から線、線から面へと広がるような展開を期待したい。
- ・長時間に及ぶが、委員の皆様には率直な発言をお願いしたい。

## 4. 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

### (1) 総合計画の概要及び成果検証体制について

平山が、資料1-1及び1-2、1-3に基づき説明を行った。質疑等はなかった。

### (2) 平成29年度の成果検証結果及び改善方針(案)について

政策ごとに、各政策部会の部会長が、資料2-1及び2-2に基づき説明を行った。政策ごとの主な意見等は以下のとおり。

### 《主な意見等》

#### ①安定した雇用を創出する（担当：雇用創出部会）

- 世界文化遺産である万田坑をはじめ、今後は荒尾干潟水鳥・湿地センター(仮称)も設置予定であるので、土産物店や飲食店などができくれば、雇用創出にもつながると考える。
- 荒尾市においては南新地地区の再開発を進められており、県内でも最も成長性を秘めた地域と認識している。引き続き、南新地土地区画整理事業を軸に、企業誘致や雇用創出を進めてほしい。  
一方で、万田坑の入坑者数が目標に達しておらず、観光入込客数100人当たり2人程度しか万田坑を訪れていない状況となっている。観光資源である万田坑を活用してどう人を呼び込むかをより具体的に検討してはどうか。

- 今後、万田坑の隣接地に物産館を建設する予定であり、ガイド体制も充実してきているため、それらの情報を発信するとともに、大牟田市の宮原坑などの観光資源との連携を深めながら、誘客の拡大を図っていききたい。(事務局)
- 数値目標の就業率については、各年次での数値の把握ができない指標となっており、経過が分からないと成果検証が難しいため、関連する指標で就業率に代わるデータがあればよいと思った。  
また、スペースワールドの閉園により荒尾市のグリーンランドは九州でも随一の遊園地になっていると思うため、そのような資源を十分に活用してほしい。
- ②新しいひとの流れをつくる(担当:移住・定住部会)
- インターネットの普及が進む中、移住に関する相談件数が15件、移住者数が2件というのは少ない気がする。移住の促進に当たっては、ターゲットを絞り、子育て支援策などと併せて実施してほしい。  
空き家バンクについても、空き家をそのまま登録するのではなく、リフォームを実施した上で流通を図った方がよいのではないかと思う。  
仕事と住まい、安心安全を合わせ、移住に向けた情報発信を行ってほしい。
- 成果が小さい部分もあるが、子育て支援策等とも連携しながら、地道に継続して成果を上げていききたい。情報発信も重要であるので、市の施策を効果的に発信しながら、選ばれるまちづくりを行っていききたい。(事務局)
- 団塊の世代が後期高齢者となるいわゆる2025年問題が迫っているが、今後介護職が不足することが見込まれており、国では外国人の雇用拡大も検討している。荒尾市においても介護職の移住を促進してはどうか。
- 本市には医療・介護施設が多いという特徴があるので、介護人材の確保に向けた移住促進事業を実施した経緯がある。大きな実績はまだ伴っていないが、今後も本市の特性を生かした事業を推進していききたい。(事務局)
- 空き家バンク事業については、荒尾市は県内でも積極的に取り組んでいる自治体であり高く評価しているところである。空き家は多いが、実際は流通させられるような物件は少ないのが現状であり、空き地も増えているところであるので、対策を検討していききたい。
- 移住定住の取組みについては、地域で連携して受け皿を整えていくことも重要だと考えており、平成28年度に玉名地域振興局管内の自治体(荒尾市、玉名市、玉東町、和水町、南関町、長洲町)でプロジェク

トチームを立ち上げ、地域の認知度向上のための動画作成や、各市町の移住支援施策や子育て支援施策等をまとめて紹介する資料の作成などを行ってきた。また、ニーズに合った情報を提供するための勉強会の開催や窓口機能のあり方についての検討も行っている。今後も、各市町の施策との相乗効果で移住定住の促進につながることを期待している。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(担当：結婚・出産・子育て部会)

- 日本全体の傾向ではあるが、30代・40代の未婚率が高くなっており、深刻だと感じている。経済的な負担感も課題だとは思いますが、虐待なども増えており、子育てに関する課題は複合的なものになっていると感じている。

荒尾市においては、学童保育の実態はどのようになっているか。

- 本市においては小学校10校区全てに学童保育を開設しており、500人程度が利用している。現在1校区において待機児童が発生している状況である。(事務局)

※時期による変動は大きいですが、8月21日現在における利用者数は481人となっている。

- 荒尾市においては、近年子育て支援施策に力を入れているという印象であり、若い世代にとっても助かっているという話を聞いている。一方、熊本県においては、若年層の中絶率や離婚率が高いという課題があるため、中高生に向けた性教育を充実させることなどにより、健全な結婚や子育てができるようになるのではないかと思う。

- 性教育については、重要性を認識しており、子どもたちにも伝えるため、学校現場において早い段階で実施しているところである。(事務局)

④時代に合ったまちをつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域の連携を推進する(担当：時代に合ったまちづくり部会)

- 今後、高齢化の進行に伴い移動の問題が深刻になってくると思われる。移送を行う事業者に対する支援はどのようなものを実施しているのか。

- 公共交通の重要性がさらに高まることが予想される中、交通事業者同士の関係や財政負担など、バランスをとりながら対策を検討する必要があると考えている。本市で運行している乗合タクシーについては、今後荒尾市民病院への乗入れを開始する予定にしているが、バス事業者への影響なども考えながら、持続可能な体系としていくことを重視している。買い物支援などについても、今後検討していく必要があると認識している。(事務局)

- 社会福祉協議会においては、支援を必要とする方に対し、買い物の際

の同行支援や移送に関する支援なども行っている。

- 経営資源に限られる中、中期的な将来の課題を見据え、高齢者等の暮らしをいかに効率よく守っていくかを検討してほしい。
  - 公共交通機関については、地域特性に応じ、大量輸送が可能な路線バスと、乗合タクシーを導入しているが、今後は、電気自動車や自動運転車も普及してくると思われるため、南新地地区などにおいては、未来の都市を想定した交通ネットワークを構築してほしいと思う。そうすることで、安心安全とともに、通勤や通学のしやすさなどの暮らしやすさをアピールできるのではないか。
- ⑤ 豊かな心、優れた教養、健やかな体を育む（担当：教育・人材育成部会）
- 発達障害などに対する支援についてはスクールカウンセラーが担うこともあるが、学校内だけでなく家庭内や地域内での問題もある場合、スクールソーシャルワーカーも必要になってくると思われる。荒尾市における状況はいかがか。
    - 特別支援教育については対象が広がってきており、学校現場においても、特別な支援を必要とする子どもたちは多くなっている。人員を増やして対応しており、教育委員会においても、スクールソーシャルワーカーと臨床心理士を1名ずつ配置している。（事務局）
  - 中学校へのエアコン設置について、今年度の工事で若干遅れが発生しているようだが、夏休み中の設置は可能なのか。また、小学校への設置についても、市長からは市民に対し早期設置の意向を伝えられているようである。当初は2年かけて設置する予定であったようだが、猛暑であることも踏まえ、早めの設置を検討してほしい。
    - 工事が若干遅れているところはあるが、夏休み中に設置できるよう進めているところである。（事務局）
  - 小学校へのエアコン設置については、来年度のできるだけ早い時期に実施できるよう努めたいと考えている。
  - 小学校の運動部活動が社会体育に移行する件について、今後のあり方を検討する中で、指導者の確保や活動時間の確保が問題だと感じている。体育協会としても役割を担うべく努力しているところであるが、なかなか妙案が出ていない。子どもたちにはスポーツを継続してもらいたいため、それぞれの種目協会にも、競技人口拡大のチャンスであること等も踏まえ、積極的に関わっていただけるようお願いをしているところである。
  - 人口減少の克服に当たっては、教育分野、特に学校の果たす役割はと

ても大きいと改めて感じている。市内の小学校においては、生徒数が減っている学校もあるが、増えている学校もある。学校の魅力が高まると、生徒は増え、人口減少にも歯止めがかかるのではないかと思う。そのためにも、まずは子どもが主体的に楽しんで取り組めるような授業をつくるのが大事だと思うので、今後も改善を図っていきたい。

#### ⑥ 健やかで安心できる暮らしをつくる（担当：健康・福祉部会）

- 様々な施策を推進するに当たり、行政としては財政配分が難しいだろうと思っている。

荒尾市のまちづくりの基本は、健康で安心して暮らせるまちづくりだと思っており、急性期医療の要である荒尾市民病院新病院の建設地が決定したことには感謝している。今後は、できるだけ早期の建設を期待している。

認知症対策に関しては、荒尾市では熊本大学と協定を結び、コホート研究を実施しているが、今後も連携を強化し、継続していただきたい。また、荒尾市民病院の新病院にはバスの乗入れがなされ便利になると聞いているが、保健センターや包括支援センター、在宅ネットあらおなどの施設も、病院内にまとめられたらより良いのではないかと思う。保健・医療・福祉の機能を集積し、市民が安心できる場所にしてほしい。

- 長寿社会の中でいかに医療・介護の支出を抑制していくかが課題になると思うが、社会福祉協議会においては、社会福祉グループや行政とも連携し、高齢者に対し、自分の健康は自分で守るという意識を啓発していきたいと考えている。

#### ⑦ 政策全般

- 元気なまち、明るいまちをつくることを考えると、空き家が多く発生している中、空き家バンクに9件しか登録されていないのは少ないと感じる。景観も悪くなるため、登録者に対する支援を明確に打ち出すことで、空き家バンクへの登録を促し、環境改善を図っていただきたいと思う。

また、市外の中学校に通う子どももいる状況であるが、今後岱志高校の魅力を高めることで、地元の学校への進学を目指す子どもが増えるのではないかと思う。

- 南新地土地区画整理事業や荒尾市民病院の新病院建設という事業を核に今後のまちづくりを進めていただきたいが、課題を見返してみると、いかに子どもたちを地元に残すかが重要であると感じる。そのためには、安全安心に加え、教育環境の充実が重要であり、居住空間を魅力的にすることでさらに吸引力が高まると思う。成果検証結果を踏まえながら、子どもたちを中心とする魅力あるまちづくりを進めてほしい。

5. その他

田川課長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。

6. 閉会

田川課長が、閉会を宣言した。

以上